

プログラム名

東京慈恵会医科大学 整形外科専門研修プログラム

募集定員

12名

研修期間

4年

プログラムの特徴

東京慈恵会医科大学整形外科学講座は1922年(大正11年)に誕生し、平成34年には創立100周年を迎える伝統ある教室である。本学の「病気を診ずして病人を診よ」という建学の精神と伝統を重視し、「名医より良医を」という考えのもと、「優れた知識と技術」と「医の心」をあわせ持つ医師を育てることを目標にしている。

当講座では、新生児から高齢者までのあらゆる年齢層の整形外科疾患を扱い、四肢関節(手・肘、肩、股、膝、足)、脊椎・脊髄、関節リウマチ、骨・軟部腫瘍、骨代謝の9分野で専門外来を設け、外傷学を含めた幅広い分野を対象とした診療を行っている。また、「医師」と「メディカルスタッフ」によるコミュニケーションを密にしたチーム医療を実践している。

専門医研修プログラムとして東京慈恵会医科大学附属病院(本院)を基幹病院として附属3病院、当講座関連病院、聖隷浜松病院を連携施設として専攻医はローテーションでそれぞれの病院で研修を行う。ローテーションシステムは本学では2010年から行っており、1つの病院を半年ごとにローテートしていくシステムを採用している。多くの病院をローテートすることで多くの「師」のもとで豊富な臨床経験を積めると高い評価を得ている。

附属病院として、本院(東京都港区)、葛飾医療センター(東京都葛飾区)、柏病院(千葉県柏市)、第三病院(東京都狛江市)4つの病院を有しそれぞれの特徴を生かした診療を行っている。

本院は本学の基幹病院として全ての整形外科疾患の治療が完結できるように全ての分野の専門医が在籍し診療にあたっている。葛飾医療センターでは足の疾患、柏病院では高度外傷、第三病院では股関節疾患、脊椎疾患をそれぞれ柱として幅広い分野の診療を行っている。

その他の研修連携病院には東急病院、豊島病院、西埼玉中央病院、市立厚木病院、神奈川県リハビリテーション病院、宇都宮病院、富士市立中央病院、聖隷浜松病院がある。

- ・東急病院(東京都): 私鉄駅に直結した利便性のよい病院で膝関節外科、脊椎外科の専門医を中心とした診療を行っている。
- ・東京都保健医療公社豊島病院(東京都): スポーツ外傷(特にスキー外傷)の症例が多く、前十字靭帯再建術、高位脛骨骨切り術、人工関節置換術などの症例を多く扱っている。
- ・独立行政法人国立病院機構西埼玉中央病院(埼玉県): スポーツ医学センター、人工関節センターを院内に設置しスポーツ外傷、人工関節手術などの症例を多く扱っている。
- ・神奈川県リハビリテーション病院(神奈川県): 股関節疾患の症例が多く人工股関節置換術、骨切り術、股関節鏡など手術件数は県内随一である。
- ・独立行政法人国立病院機構宇都宮病院(栃木県): 人工関節置換術、高位脛骨骨切り術、脊椎外科手術などを中心に地域の中核病院になっている。また、臨床研究部を併設し臨床研究にも力を入れている。
- ・厚木市立病院(神奈川県): 外傷、変性疾患がバランスよく経験できる地域の中核病院である。
- ・富士市立中央病院(静岡県): 地域の中核病院として外傷を中心とした診療を行っている。
- ・聖隷浜松病院(静岡県): II型基幹施設として独自のプログラムがあり、研修システムは確立しており研修施設として人気の高い病院である。新専門医制度の発足にあたり、当プログラムの連携施設になった。